



避けるのではなく乗り越える

コスモスハーモニーにお便りがどんどん届いています。

お家の方々のお便りを読むたびに、心がじんわりと温かくなります。

お便りの行間から溢れる我が子を想う気持ちに触れるたび、深くうなずいたり、勇気づけられたり、安心感を覚えたり。

私自身も4人の子どもの父親として、共に教育に向かい合っている方々の存在を感じられることが何より有難く、同時に心強さをいつも感じています。

子どもたちの成長の場を支える大人たちがタッグを組むことほど、大きな教育効果をもたらすものは無いと最近改めて思うようになりました。

また、いくつか紹介させていただきます。

先日子供が学校から帰ってくるなり、涙をこらえながら、乱暴な言葉で私に怒りをぶつけてきました。理由を聞いても、「教えたくない」との一点張りです。就寝前のベッドでも、ぬいぐるみで目元を隠して、涙をこらえていました。

早速、先生へメールを送りました。

翌日の帰宅後は普段より元気に帰ってきました。良かったです。きっと先生方が対応をして頂いたとっております。ありがとうございます。

この出来事で【嫌な事を経験することは決して悪いことではない。嫌な気持ちを経験して、乗り越えたらそれが成長だな】と考えていました。

NO25 を読んで、とても共感しながら読んでいました。

嫌な気持ちになっても、そこで「嫌だな」との気持ちだけで、思考がストップするのではなく、嫌だと思ったら嫌じゃない気持ちになる為には、どうすればいいかと考えて行動に移せる様伝えていかなくてはと思いました。

ありがとうございます。

PN. 「okome」さんより

okome さんの文章を読みながら、私も「乗り越える」ということについて思いをはせていました。

クラスには、色んな人がいます。

気の合う人がいれば、そうでない人もいます。

同じことをしていても「楽しい」と感じる人がいれば、「つまらない」と感じる人もいます。

同じ言葉を聞いても、喜ぶ人がいれば怒り出す人もいます。

容姿も違えば能力も違って、解釈も違えば感覚も違います。

これだけ違う人間が数十人も集まっているわけですから、毎日色々な事が起きます。

小競り合いがあれば、ぶつかることだってあります。

それが、自然だし普通です。

ごくごく当たり前のことです。

うまく行くこともあれば、そうでない時もある。

人間関係も一つの“勉強”だといえます。

あらゆる勉強には、間違いや失敗がつきものです。

例えば、算数の問題で間違えた時。

「今度は決して間違えるな」

という学習の指導法には、きっと多くの人が首をかしげるでしょう。

決して間違えないと心掛けても、同じ轍は踏まないと決意しても、人はやはり失敗するものです。

そして、その失敗や間違いの経験から学ぶことで、進歩していきます。

人間関係のもめごと、基本的には同じだと思います。

「決してぶつかるな」「絶対にケンカをするな」という指導の仕方は、表面的には効果があるかもしれませんが、根本的な所で大切な学びのチャンスを奪っているとも見ることができます。

だからこそ大切なのは、必ず起きる失敗や間違いを避けるばかりではなく、それをどう乗り越えていくか。

この点に尽きると思っています。

これを学んでいくことが、教育の場においては特に重要です。

学校は、成熟した大人の集まり（社会）ではないからです。

大人だって、多くの人間関係の悩みや心配事を抱えています。

子どもたちなら尚更です。

発達途上の子どもたちは、大人以上にたくさんの失敗をするものです。

そして、その失敗を乗り越える過程で大きく成長していきます。

失敗や間違いを封じたり抑え込むのではなく、これから迎える社会生活本番に向け、その“乗り越え方”をきちんと学ぶことこそが重要だと思っています。

ですので、もめごとなどのトラブルが起きた時も、「いかに抑えるか」ではなく、「どう乗り越えるか」が大切なポイントなのだと思います。

okomeさんの文章を読みながら、「乗り越える」ということについて改めて思いを馳せることができました。



学校でも、安易に避けたり抑えたりするよりも、どうすれば乗り越え成長していけるかという視点で対応できるようにしていきたいと思います。

(文責：渡辺道治)

[1学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](https://www.google.com)